

(3) 主に女児の遊び

1) ままごと

- ア 採録した呼び方
- ・ オママゴト、ママゴト、ママゴトアソビ
- イ 遊びの話 全集落
- ウ 遊びと呼び方の状況
- 参加者を家族に見立て、役割分担で家庭を擬した女児にとり最も一般的な屋内外での遊びである。
- 本遊びの呼び方としては、「ママゴト」や「ママゴトアソビ」をはじめ計3種を採録した。
- 郡内全域で「ママゴト」と呼ばれ、他種の呼び方はみられなかった。



2) 人形遊び

- ア 採録した呼び方
- a) 一般 オニンギョサンアソビ、デコサンアソビ、ニンギョーアソビ、ニンギョサンアソビ、ニンギョサンゴッコ
 - b) 着せ替え キセカエ
- イ 遊びの話 全集落
- ウ 遊びと呼び方の状況

人形を使い、抱っこしたり、着せ替えをさせたりする主として屋内の遊びである。



本遊びの呼び方としては、「ニンギョサンアソビ」や「キセカエ」をはじめ計6種を採録した。採録集落数としては限られるものの郡内のほぼ全域で年少の女児の遊びとして「ニンギョサンアソビ」等と呼ばれ、集落によっては人形が「デコサン」と呼ばれたことから「デコサンアソビ」もみられた。

少し高学年となり、色とりどりの紙や布の端切れの形を整え、人形の着せ替えをさせる遊びは、郡内全域で「キセカエ」と呼ばれた。

当時、女児はわらや布の端切れ、古い綿を使い、手作りで簡単な人形を作っていたという。

3) 鞄つき

- ア 採録した呼び方
- ・ テマリツキ、テンマリ、テンマリツキ、テンマル、テンマルツキ、マリツキ
- イ 遊びの話 全集落
- ウ 遊びと呼び方の状況

様々な手まり歌を歌いながら、柔らかいゴムまりを手で叩き地面で弾ませることを繰り返すという屋外での遊びである。



本遊びの呼び方としては、「マリツキ」や「テマリツキ」をはじめ計6種を採録した。女児にとり一般的な遊びのひとつであり、郡内全域でそういった呼び方を採録し、他種の呼び方はみられなかった。

遊び方としては、まりつきする回数を増やしていくもののか、ゴムまりをつきながら脚を回したり、体を回したり少し複雑なこともしたという。

なお、手まり歌としては、「青葉茂れる桜井の～」といった大楠公の歌が多くみられた。

4) おはじき

ア 採録した呼び方

- 一般的な共通名 オハジキ、ハジキ
- 道具の呼び方 ゴラメ

イ 遊びの話

全集落

ウ 遊びと呼び方の状況

直径 1cm 程度の平たい小型のガラス玉や小石を散らし、指で弾いて当てあう屋内での遊びである。

本遊びの呼び方としては、「ハジキ」や「ゴラメ」をはじめ計3種を採録した。

郡内全域で「ハジキ」、「オハジキ」と呼ばれたほか、道具の呼び方である「ゴラメ」とも呼ばれた。

遊び方としては、小石と小石の間に小指で両方の石に触れないように筋を引き、片方の石を指ではじいて、もう片方の石に当てれば自分のものとなり、それを順番で（又は交互に）繰り返し、多く小石をとった方が勝ちという遊び方がみられた。



5) あやとり

ア 採録した呼び方

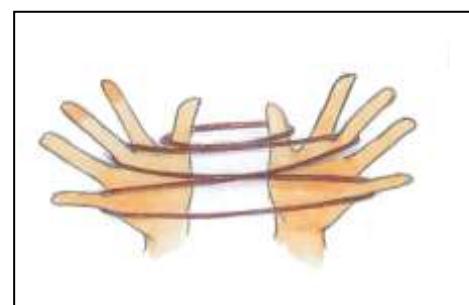
- 素材 イトトリ
- 下から取ること シリトリ
- 一般的な共通名 アヤツリ、アヤトリ
- その他 チドリ、チドリトリ、チリトリ

イ 遊びの話

全集落

ウ 遊びと呼び方の状況

一定の長さの輪状にした紐（糸）を、両手の指や手首に掛けたり外したりしながら、様々な形状に見えるものを作る屋内での遊びであり、一人で遊ぶ場合と複数の人で交互に取り合う場合がある。



本遊びの呼び方としては、「アヤトリ」や「チドリ」をはじめ計7種を採録した。

郡内全域で共通名である「アヤトリ」と呼ばれたほか、ほぼ全域で「チドリ」とも呼ばれ、それに類した呼び方として広域で「チリトリ」と「チドリトリ」がみられた。

また、もう片方の人が下側から変形させながら取り合うことからの「シリトリ」や、使用した素材である糸から「イトトリ」も集落数としては限られるものの広域でみられた。

6) お手玉

ア 採録した呼び方

- 一般的な共通名 オテダマ、オジャミ
- 使用素材 イシブクロ、オコビ、オコミ
- 遊び歌 トンキン
- 使用個数 ナナツ、ナナツトンキン
- 形状 ホーズキ
- その他 オツク、オツツク、サイキヨ、サイキヨー、サイコ、サイコロ、ナンキン

イ 遊びの話

全集落

ウ 遊びと呼び方の状況

小さな布切れの中に小豆やジュズダマの実などを入れて作る遊具であり、数個をひと組として使い歌に合わせてほり上げたり受けたりを繰り返し等する屋内での遊びである。

本遊びの呼び方としては、「オコビ」や「ナナツ」をはじめ計16種を採録した。

郡内は当時の小学校区又はそれを合わせた区域を単位とするほぼはつきりとした7つの呼び方の地域に分かれ、坂下から関町地区にかけては「オコビ」、亀山町地区を中心に郡中央部の広い地域で「ナナツ」と呼ばれたほか、庄内地区では「トンキン」、椿地区では「サイキヨ」、久間田地区から深伊沢、高津瀬、庄野、牧田地区にかけては「サイコ(口)」、石薬師地区では「オツツク」、加太地区では「イシブクロ」等と、地域により多様な呼び方がみられた。

また、ホオズキの実に似た形状から「ホーズキ」とも呼ばれる場合もみられた一方、大阪・京都等との交流の影響から「オジャミ」も郡西部を中心に一部使われ、こうした採録した呼び方は、遊具であり遊びを意味する総称でもあった。

なお、隣接地域として調査を行った鈴鹿市三宅町では「ヤンヤ」、四日市市山田町では「オツ」、同市水沢町では「ヒトツイ」、土山町山内では「オコビシ」、伊賀市柘植町では「オシト」を採録し、隣接地域においても多様な呼び方がみられた。

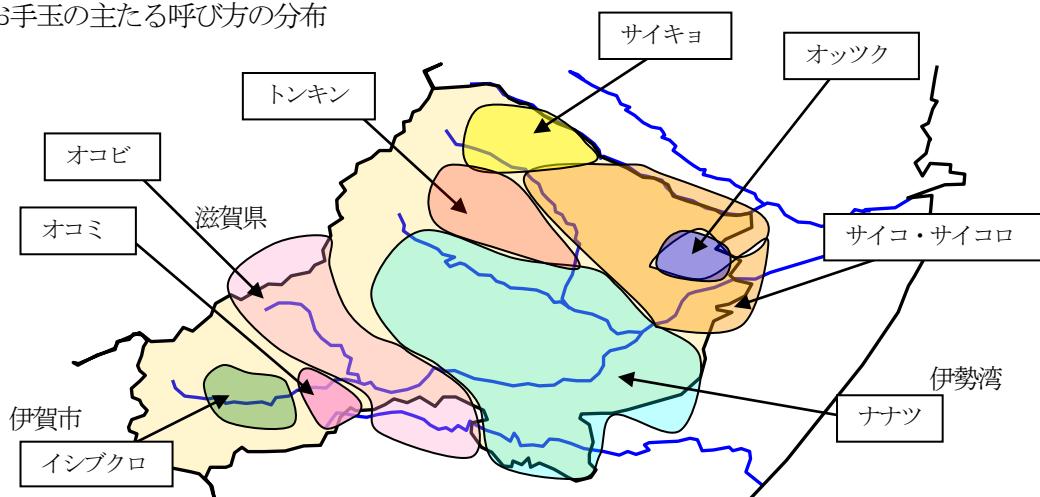
エ その他

三個で遊べるようになると一人前とされ、レベルが高くなると数が増やしたり、複雑な動きをさせたという。

なお、お手玉の形状としては、最も一般的な4枚の布を縫い合わせたものや製作が簡易な枕状のもののほか、稀であったが菱形ものも作られたようで、計3種類がみられた。



お手玉の主たる呼び方の分布



7) 地面での陣取り

ア 採録した呼び方

- ・ 鱗状に描くこと ウロコトリ
- ・ 陣地を増やすこと クニトリ、ジドリ、ジメン
トリ、ジンチトリ
- ・ 一般的な共通名 ジントリ、ジンドリ
- ・ その他 テントリ、バイトリ、ハバトリ、ババ
トリ、モモグリ



イ 遊びの話

全集落

ウ 遊びと呼び方の状況

地面上に円又は四角の枠を描き、その内側で線上を基点として手のひらを伸ばし半円を描き、それで得られる部分を最初の陣地としたうえで、一定のルールのもとで陣地を増やすことを競い合う屋外での遊びである。

本遊びの呼び方としては、「ウロコトリ」や「ジントリ」をはじめ計12種を採録した。

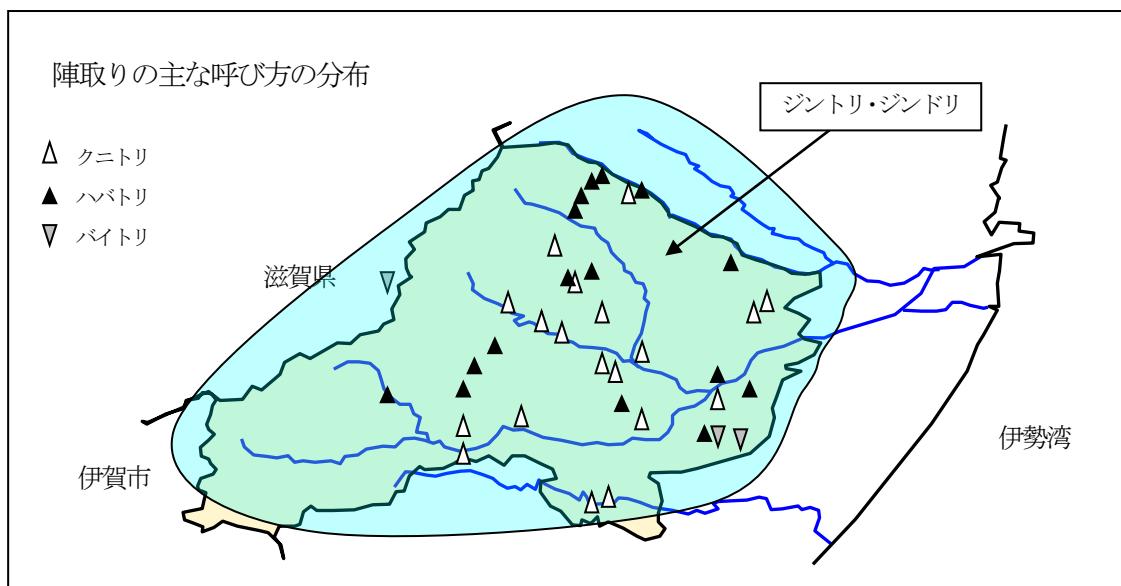
郡内のほぼ全域で「ジントリ」と呼ばれたほか、安楽川沿いの川崎・野登・庄内地区を中心に「クニトリ」、椿地区や白川地区等で「ハバトリ」、国府地区で「バイトリ」とも呼ばれ、集落によっては「テントリ」、「モモグリ」等もみられた。

また、手のひらで鱗状の模様を描きながら陣地を増やしていく遊び方は「ウロコトリ」と呼ばれた。

なお、「クニトリ」と「ジンドリ」については、釘を使った遊びでも同じ呼び方があり、曖昧な部分が残る。

エ その他

遊び方としては、じゃんけんで勝てば親指を基点として手のひらをまわして得られる面積を順次増やしていくもの、じゃんけんで勝ったその出し手に応じて予め定められた手を大きさを回して得られる面積を増やしていくもの、小石を使い指で3回弾いて自分の陣地に戻ることができたらその囲まれた部分の自分の陣地として増やしていくという遊び方がみられた。



8) 跳ぶ遊び

長い紐やゴムなどを使い、いろんな様態で跳ぶ遊びについては、主に縄跳びと段跳びの2種について呼び方を採録した。

① 縄跳び

ア 採録した呼び方

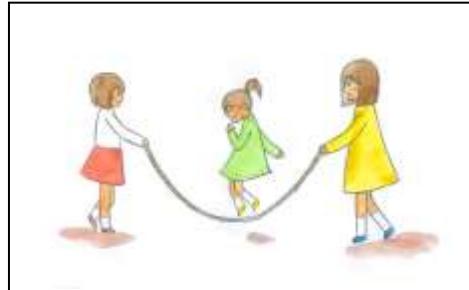
- 一般的な共通名 ナワトビ
- 歌から オジョーサン

イ 遊びの話

全集落

ウ 遊びと呼び方の状況

長い縄又は紐の両端を二人で持ち、それを左右に動かし、他の人がその中に入って、脚が引っかかるないようタイミングを合わせて跳びあがり、遊びを続けるもので、縄等を回転させたり、人が出入りしたりする屋外での遊びである。

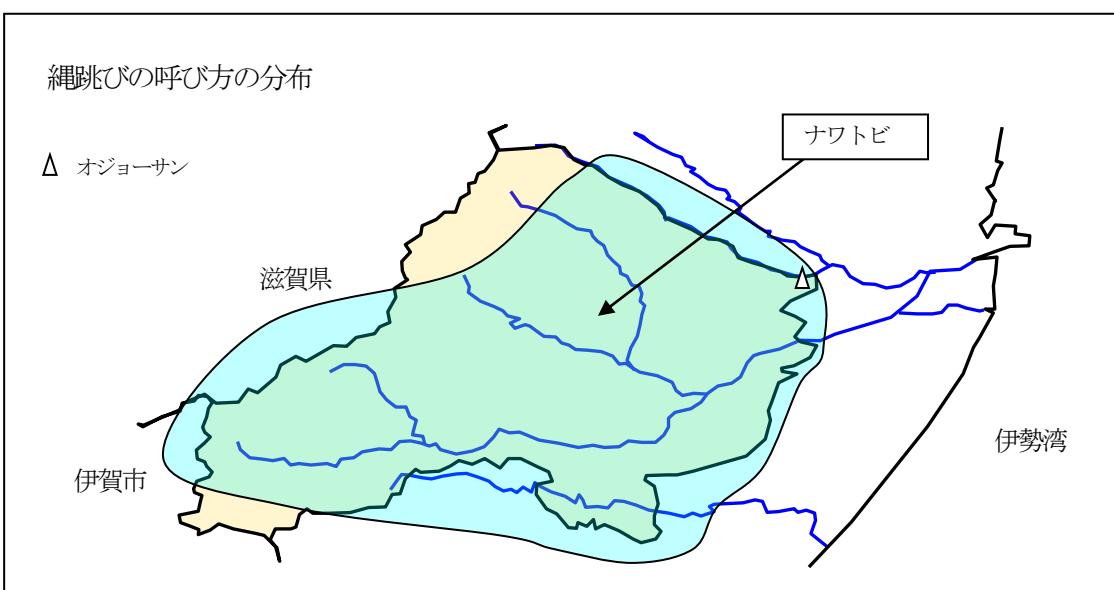


本遊びの呼び方としては、「ナワトビ」と「オジョーサン」の計2種を採録した。

郡内全域で一般的な「ナワトビ」と呼ばれたほか、南小松町では歌からの呼び方である「オジョーサン」がみられた。

エ その他

「お嬢さん、お入りなさい～」といった歌とともに遊んだという。



② 段跳び

ア 採録した呼び方

- a) 道具から ゴムトビ、ヒモトビ、ワゴムトビ
- b) 跳び方から イチダントビ、イッスントビ、スントリ、ダンダントビ、ダントビ、ニダントビ
- ・ 跳ぶ高さから タカトビ、ヒザトビ

イ 遊びの話

全集落

ウ 遊びと呼び方の状況

主に輪ゴムをつなげて長くし、それを二人が同じ高さに張り、他の者がそこを跳ぶもので、膝、腰、臍等徐々に高さを上げ、難しくしていくという屋外での遊びである。



本遊びの呼び方としては、「ゴムトビ」や「イチダントビ」をはじめ計11種を採録した。

郡内全域でゴムや紐を使ったことから「ゴムトビ」や「ヒモトビ」等と呼ばれたほか、跳び方から「イチダントビ」や「イッスントビ」等計8種を採録した。

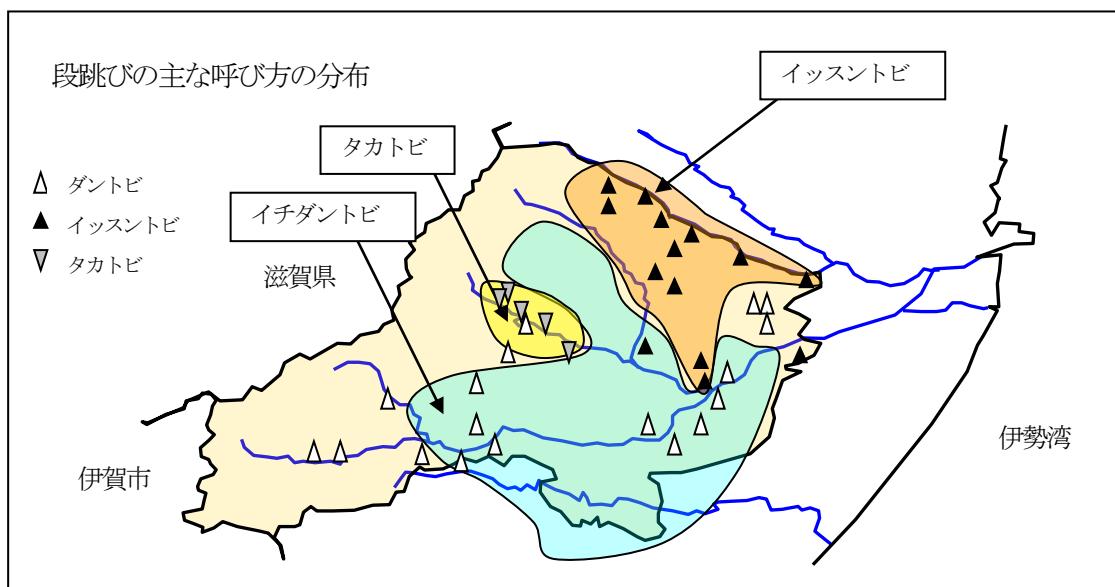
郡内では大きく4つの呼び方がされ、郡中南部地域を中心に広い地域で「イチダントビ」、深伊沢地区から椿・久間田地区にかけての郡北部で「イッスントビ」、野登地区で「タカトビ」と呼ばれたほか、「ダントビ」が加太地区や石薬師地区のほか、鈴鹿川沿いのいくつかの集落でもみられた。

なお、隣接地域として調査を行った伊賀市柘植では「タカトビ」を採録した。

エ その他

当時は輪ゴムが手に入りにくかったようで、自転車のチューブを細長く割き繋いで作ったという話が数集落でみられた。

また、集落によっては、「一段」・「二段」又は「一年生」・「二年生」と言って、高さを上げていったという。



9) 折り紙

ア 採録した呼び方

- 一般的な共通名 オリガミ
- 使用する紙 イロガミ

イ 遊びの話

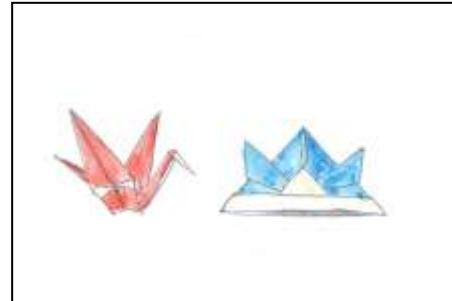
全集落

ウ 遊びと呼び方の状況

正方形の紙を折り、様々な形を作る屋内での遊びである。

本遊びの呼び方としては、「オリガミ」と「イロガミ」の計2種を採録した。

郡内全域で「オリガミ」と呼ばれたほか、色紙で折ることから「イロガミ」とも呼ばれた。



10) 紙風船

ア 採録した呼び方

- カミフーセン、パンパン、フーセン、フーセンポン、ポンツキ、ポンポン

イ 遊びの話

全集落

ウ 遊びと呼び方の状況

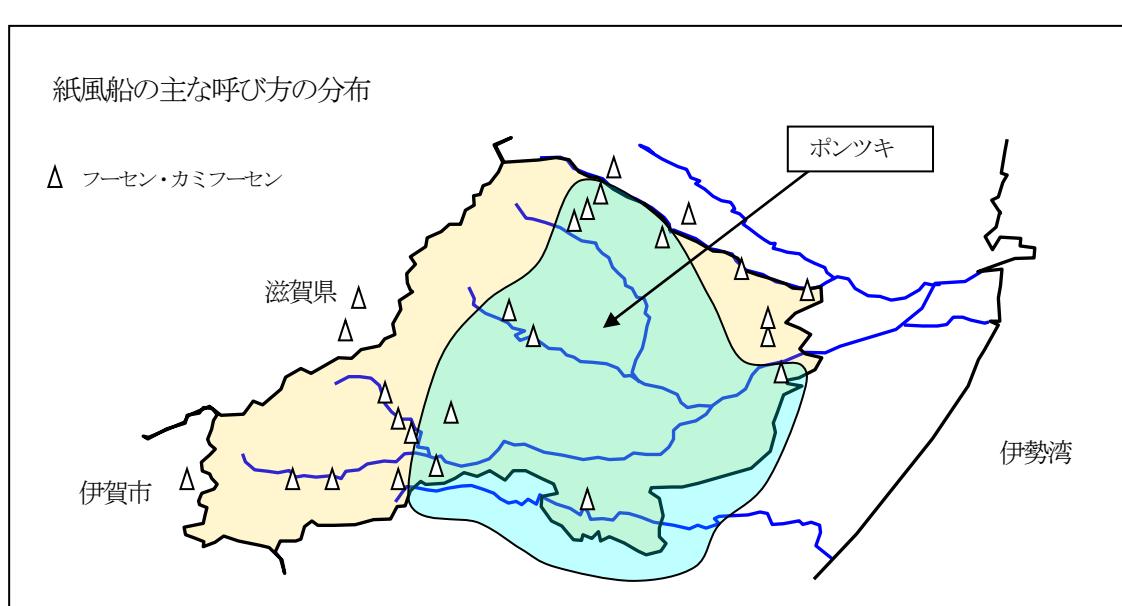
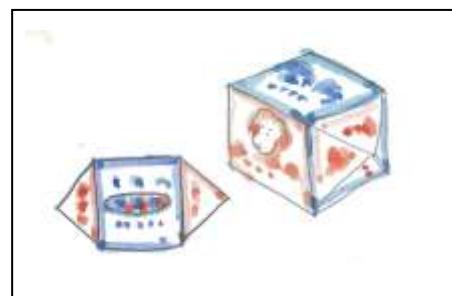
薄い紙でできた風船としての遊具であり、表面にある小さな穴からフッと息（空気）を入れ膨らませ、それを手のひらで軽く突き上げ「ポン」という小気味よい音をさせて遊ぶ屋外での遊びである。

本遊びの呼び方としては、「ポンツキ」や「フーセン」をはじめ計6種を採録した。

郡中部を中心に広い地域で「ポンツキ」と呼ばれたほか、加太地区、坂下地区また石薬師地区、椿地区等では「フーセン」、「カミフーセン」等と呼ばれた。

エ その他

当時、置き薬の販売のため各家庭を巡回していた薬売りが子ども達に配ったものである。



11) 竹がえし

ア 採録した呼び方

- 12枚の竹 ジューニサシ、ジューニシ、ジュー
ニタケ、ジューニワリ
- 7枚の竹 タケナツ
- 竹を取る タケトリ
- 一般的な共通名 タケガエシ、タケガヤシ
- その他 オサライ、オテガエシ、ヒックリカエシ

イ 遊びの話

多くの集落

ウ 遊びと呼び方の状況

細長い竹片 (20cm×2cm程度) を使った屋内での遊びである。本遊びはいくつかの遊び方があつたようで、代表的なものは手のひらにすべて持ち、軽く投げ上げ、手の甲で受け止め、そこから1枚ずつ並べて下ろしていくというもので、竹片の下ろし方（表裏や順序等）で難易度を高めていたという。

本遊びの呼び方としては、「ジューニタケ」や「タケガエシ」をはじめ計11種を採録した。

郡内では大きく分けて4つの呼び方がされたようであり、井田川地区から安楽川沿いの集落で「タケトリ」、石薬師地区から久間田地区及び昼生地区・国府地区では「タケガエシ」、神辺地区で「オサライ」と呼ばれたほか、「ジューニタケ」が点在してみられた。

その他、「タケナツ」という呼び方のように、集落（又は、遊び方）によっては竹片の数が異なり、それが呼び方の違いとなっている場合もみられた。

なお、隣接地域として調査を行った明地区では「ジューニワリ」、四日市市山田町では「タケチク」を採録した。

エ その他

郡内では、女児であれば誰もがしたという一般的な遊びではなかつたようで、遊びの経験のない回答者も少なからずみられた。



竹がえしの主な呼び方の分布

- △ ジューニタケ
- ▲ タケガエシ・タケガヤシ
- ▽ タケトリ
- ◊ オサライ

滋賀県

伊賀市

伊勢湾